

第4章 重点事業実績と評価

資料 1 - 3

重点事業の評価基準について

第4章においては、新たに設定する重点事業の令和6年度目標に対する進捗を年度ごとに確認し、下記の評価基準に当てはめて評価する。

「事業の進捗状況」及び「質の向上」の2点に対して評価する。

<進捗状況に対する評価>

- A 評価 … 令和6年度目標を達成している
B 評価 … 令和6年度目標は未達成だが、推進が認められる
C 評価 … 令和6年度目標に対して推進が認められない

<質の向上に対する評価>

- A 評価 … 向上できた
B 評価 … 現状維持
C 評価 … 向上できなかった

No.	事業名	担当課	事業内容	指標	令和6年度 目標	令和6年度の取組・課題と対応策	進捗評価	質の向上
基 1-1 No.9	子育て支援センター・ 子育て世代包括支援 センター	こども家庭・ 保健センター (こども家庭 総合支援担 当)	こども家庭総合支援室、子 育てセンター、ファミリー・ サポート・センターや子育て 世代包括支援センターが、 子育て支援の拠点として他 機関との連携によるネット ワークでの総合的な子育て 支援を行う。	こども家庭総合支援室、 子育てセンター、ファミ リ・サポート・センター 及び子育て世代包括支 援センターにおける他機 関との連携を強化	充実	子育てセンターでは、コロナ禍により孤独、孤立感を持ちつつある親子に対し て、事業を通じて声掛けや相談などを実施し、必要があれば子育て世代包括 支援センターの保健師やこども家庭総合支援室の支援員につなぎ、こどもを遊ば せながら面談などを実施した。相談後も事業に参加されるなかで継続して見守 りを実施することが出来た。 こども家庭総合支援担当では、定期的に学校・園でのこどもの状況を担当教諭 から聴き取りを実施した。 令和5年4月にこども家庭・保健センターを設置し、各関係機関との連携を取り ながら相談・支援体制の強化及び全ての妊産婦、子育て世帯、こどもへ一体的 に相談支援を行っている。	A	B
基 2-1 No.5	幼稚園教諭、保育士 の人材育成と資質の 向上	ほいく課	幼稚園教諭、保育士、保育 教諭等としての資質や指導 力の向上のため、研修、実 習等を通じた人材育成の充 実を図る。	研修会への参加人数	450人	【認定こども園・保育所等】 ・ほいく課主催研修9回 (市立私立認定こども園、保育所職員、ほいく課職員延べ306名) ・こども園・保育所主催研修 15回 (市立私立認定こども園、保育所職員、ほいく課職員延べ280名) ・保育士等キャリアアップ研修 5回 (私立保育園職員、ほいく課職員延べ231名) 幅広い内容で企画、開催し、参加人数を増加させたことで、質の向上につな がった。	A	A
		保健安全・ 特別支援教 育課			450人	【市立幼稚園】 芦屋市立幼稚園5園が公開保育を伴う研究会を実施した。また、特別支援教育 研究会並びに報告会や幼稚園教育研究会でも、就学前教育・保育施設の保育 者が共に学ぶ機会となった。就学前研修会では、実技や講話など、幅広い分野 の研修会を開催した。保健安全特別支援教育課主催の研究会、研修会におい て、市内の幼稚園教諭、保育士が共に学んだ人数は、延べ306人 であり、昨年度の参加者数と比較して増加した。今後も、共に学ぶ場を大切に し、指導力向上、人材育成の充実に努める。	B	A

No.	事業名	担当課	事業内容	指標	令和6年度 目標	令和6年度の取組・課題と対応策	進捗評価	質の向上
基 2-1 No.6	教育・保育施設への 巡回訪問及び保育の 質の評価	ほいく課	市職員が定期的に各施設を 訪問し、保育内容や環境等 について意見交換・助言等 を行う。また、「芦屋市 保育 の質の評価」のチェックシ ートを活用し、保育の質の向 上を目指す。	各施設への年2、3回の 定期的な巡回の実施	充実	取組： 【認定こども園・保育所等について】 ・23施設を延べ52回訪問した。 ・不適切保育や食育について確認し合い、今後の対策等を話し合った。施設ご とに研修や保育の振り返りを行う等の機会を取り入れていく。 【芦屋市保育の自己評価の活用と評価】 ・市立私立認定こども園・保育所等が自己・施設としての評価を行っていること を次年度に市ホームページで公開する。また各施設に年2～3回定期的に巡回 訪問を行い、保育について相談や助言等を行った。 課題：感染症の流行期には訪問ができないこともあった。 対応策：感染防止対策を講じながら、園と日程調整等を行いながら実施してい く。	A	A
基 3-1 No.1	地域における子育て 支援活動	市民参画・ 協働推進課	あしや市民活動センターや 幼稚園、保育所、認定こども 園等の公共施設を利用し、 子育ての情報交換・団体間 交流・ネットワーク化を図 り、地域における子育て支 援活動の充実を図る。	子どもの育成にも効果 的な活動を行う市民活 動団体への支援及びあ しや市民活動センターに おける事業の実施	充実	あしや市民活動センターは、市民活動を支える中間支援組織である。こどもの 支援活動団体に活動の場、こどもには市民活動を楽しむ体験する場、そしてそ れぞれをつなぐ場を以下の取り組みを通して提供した。前年度と比べて、活動 の場が増えていること、また今までに無かった分野(スポーツ:新緑・春の健康 ぽかぽか運動会)での活動も開催できていることから、内容が充実し、質の向 上ができた。 ・「夏休み！わくわくスペシャル」は、こどもの居場所づくり、団体の活動の場と いうコンセプトで開催した。(こどもが119人参加) ・「芦屋発 君も今日から新聞記者」は、神戸新聞社の協力を得て講座を開催。 福祉団体、ボランティア団体、芦屋警察署等などに取材を実施し、新聞づくりを 行った。(高校生5人が記者として活動:8人へ取材) ・「あしや部(芦屋市在住高校生の交流の場)」では、芦屋さくらまつりの日にこ どもの居場所づくりを実施した。 ・「トライやる・ウィークの受け入れ」は、市内の中学生10人を受け入れ、市内の ボランティアや芦屋市職員へのインタビューを行った。 ・「新緑・春の健康ぽかぽか運動会」は、芦屋大学ボランティア部Aquaを中心 に実施。ボランティアと参加者167人で健康的な一日を過ごした。 ・「ママと子の居場所「つきいちよるごはん」」は、就学前のこどもとママの癒し と交流の場として、こどもはワークショップを楽しみ、親は子育てについて語り 合う場をつくった。(年長から小学校低学年対象:全6回51人参加) ・「さくらまつり清掃ボランティア実行委員会」は、クリーングループジュニアの メンバーを中心に、さくらまつり中の清掃に取り組んだ。 ・「スマイルボランティア」は、小中学生が7人参加し、ふれあいカフェの運営や、 新緑・春の健康ぽかぽか運動会のボランティア活動に取り組んだ。	A	A

No.	事業名	担当課	事業内容	指標	令和6年度 目標	令和6年度の取組・課題と対応策	進捗評価	質の向上
基 3-1 No.1	地域における子育て 支援活動	ほいく課	あしや市民活動センターや 幼稚園、保育所、認定こども 園等の公共施設を利用し、 子育ての情報交換・団体間 交流・ネットワーク化を図 り、地域における子育て支 援活動の充実を図る。	幼稚園、保育所、認定こ ども園での子育て世帯 への施設開放の実施	充実	〔認定こども園・保育所〕 園庭開放実施回数 101回 参加人数 393組の親子 固定で参加する親子も多く、親子での交流の場や育児相談の場となった。	A	A
		保健安全・ 特別支援教 育課				【市立幼稚園】 子育て支援として、3歳児親子ひろばでは、親子で楽しめるプログラムを工夫し 市内5園で年間延べ195回、848組の親子が利用した。また、園庭開放では、 在園児が5園で延べ369回4,556組が、未就園児は、延べ180回634組が 利用した。また未就園児との交流会も84回455組が参加した。3歳児親子ひ ろばや園庭開放、未就園児との交流会共に、昨年度の参加組数と比較して増加 した。地域子どもたちが園庭で安心して遊べたり、気軽に子育ての相談をし たりする場となり、親同士が仲良くなり子育ての情報交換ができる場となっ た。今後も園庭開放等の更なる充実を図っていく。	A	A
		こども家庭・ 保健センター (こども家庭 総合支援担 当)		地域での子育てセンター 事業の実施	充実	子育てセンター事業においては、コロナ禍により縮小・中止していた事業を、感 染防止対策を講じながら、開催時間・定員等を徐々に増やした。オンライン事業 は、自宅での参加のしやすさもあるため食事に関すること等こども家庭・保健 センターの栄養士と共催のプログラムを継続して実施した。 今後も事業の内容や実施の仕方などについて、従前同様ではなく新たな形態 で実施することも含め、こどもや保護者が楽しめる事業を実施していけるよう 努める。 子育てセンターでは、子育て支援(つどいのひろば、カンガルークラブ、あそぼ う会、プレあそぼう会、なかよしひろば、自主活動グループ)などを実施し、各ひ ろば等で子育て相談に対応している。	A	B
基 3-2 No.4	交通安全の意識向上	道路・公園課 (交通安全)	子どもの交通安全を確保す るため、「交通安全教室」や 「出前講座」等の実施によ り、交通安全に対する意識 向上を図る。	参加・体験・実践型の 交通安全教育の推進	充実	交通安全教室を市立・私立幼稚園、認定こども園、保育所等44回、小学校16 回、中学校3回、特別支援学校2回、計65回開催した。 昨年課題としていた実技指導を実施する機会が減った部分に関しては、パワー ポイントを使ったわかりやすい指導やグループワークを取り入れて、室内プロ グラムを充実させた。引き続き、児童生徒にとってより良い交通安全教室を提 供できるよう、教育委員会と協力して学校園に働きかけていく。	B	B

No.	事業名	担当課	事業内容	指標	令和6年度 目標	令和6年度の取組・課題と対応策	進捗評価	質の向上
基 3-4 No.2	インクルーシブ教育・ 保育	ほいく課	就学前施設において、配慮 が必要な子どもに対して必 要な支援体制を整備し、集 団生活を行うことにより、 当該子どもの健全な発達を 促進する。	対象児童の個別支援計 画の作成と内容の充実	充実	【市立・私立認定こども園・保育所等】 対象児童：83人 インクルーシブ教育・保育研修会：4回 実施状況：個別的な支援が必要な児童に対し、各施設が支援計画シートを作成 している。支援計画についての評価や具体的な支援について相談や助言を 行った。研修会では、講師の助言を受けながらグループワークを中心に子ども の姿を読み取ったり、支援の方法について検討を行った。また、担任、加配保育 士等を対象に個別支援シート等の記載方法やこどもの姿の捉え方、支援の振り 返り等が反映できるよう、4月に勉強会を実施している。 対象児の個別計画シートの作成の際に記入方法がわかりにくかったため、より 実効性のある書式になるよう、R7年度4月活用を目指し検討を行った。	A	A
		保健安全・ 特別支援教 育課				【市立幼稚園】 支援が必要なこども(10人)については、特別支援センター専門指導員による 巡回指導による支援を5回行った。また、必要に応じて医師等の専門職からの 助言を受け、情報共有や保護者と連携を図りながら個別の目標や支援の方向 性を明確にし、個別の支援内容の充実を図った。今後も集団の中で生活するこ とを通して発達を促しながら、地域の中で安心して生活できる土台づくりを目 指していく。職員研修を3回開催し、幼・小・中を通して、どのような力をつけて いくのか、その為には、どの時期にどのような支援が必要かといった長期的な 視点で個々の幼児の教育的支援が行えるように努めることができた。	A	A